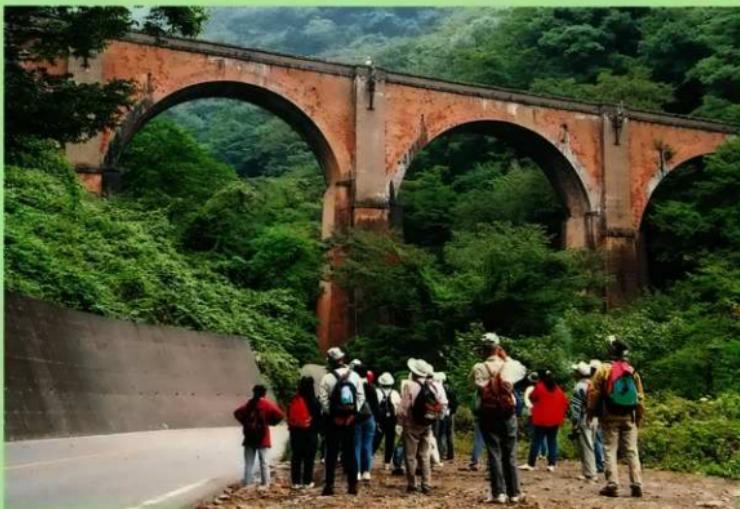


# 近代化の足跡を訪ねて

平成5年度ぐんま近代化遺産活用事業報告書



群馬県教育委員会

# 目 次

あいさつ	群馬県教育委員会管理部 文化財保護課長 荒 畑 大 治	1
近代化遺産とは	文化財保護課課長補佐 若 林 宏 宗	2
碓氷峠鉄道施設見学会実施要項		5
松井田町の近代化遺産（1）	松井田町教育委員会社会教育課課長補佐 清 水 博	8
松井田町の近代化遺産（2）	松井田町文化財調査委員 佐 藤 義 一	11
特別寄稿		
刻苦100年、旧碓井線の想い出	松井田町 佐 藤 縣次郎	14
見学会を実施して	松井田町教育委員会社会教育課主事 田 口 修	17
遺跡ガイドを夢みて	高崎市 阿 部 妙 子	18
伝えたい人間の歴史	前橋市 小 池 和 夫	18
中之条盆地の近代化遺産をたずねて 実施要項		19
中之条町の近代化遺産（1）	中之条町歴史民俗資料館長 唐 沢 定 市	21
中之条町の近代化遺産（2）	中之条町文化財調査委員長 奈 良 秀 重	23
「中之条盆地の近代化遺産をたずねて」を実施して		
見学会に参加して	中之条町教育委員会社会教育課長 植 木 正 勝	27
見学会に参加して	中之条町 中 沢 武	28
見学会に参加して	中之条町 剣 持 と志子	28
中之条盆地の近代化遺産見学会現地案内図		29

表紙写真 碓氷峠鉄道施設見学会の風景  
(通称 めがね橋)

# あ　い　さ　つ

県教育委員会事務局管理部

文化財保護課長 荒 畑 大 治

本県では、平成2・3年度に全国に先駆けて近代化遺産の総合調査を実施しました。その成果は、平成4年3月に「群馬県近代化遺産総合調査報告書」として刊行しました。また、その調査の結果、御承知のとおり、碓氷峠鉄道施設が、秋田県の水道施設とともに文化庁より近代化遺産の指定を受けました。

近代化遺産とは、これまでの文化財の概念とは少し異なったもので、江戸時代末期から第2次世界大戦の終了時までの文化財であります。まさに、わが国が明治維新以降、近代化を達成し、欧米先進国に追いつき追い越す時期の産業施設や建造物やその他もろもろの遺産であります。

ややもすると、近代化遺産が比較的新しいものだけに、文化財としての評価が不十分で、取り壊されたりする例も少なくないと思われます。そうした中で、県民の皆様に近代化遺産に対して一層の御理解をいただき、その保存と活用を図っていただくことが、緊急の課題と言えましょう。

ぐんま近代化遺産活用事業は、そのような考え方の下、平成4年度より3ヶ年計画で始められました。まず、平成4年度では、県内で最も多く近代化遺産が残っている桐生市でフォーラムを実施しました。また、引き続き本年度は、第1回は、10月3日(日)に松井田町で碓氷峠鉄道施設見学会を、また、第2回は、11月14日(日)に中之条町で中之条盆地にある近代化遺産の見学会を開催しました。いずれの会場でも、地元を中心に多くの県民の方々の参加がありました。平成6年度でも、更に本事業を継続する予定であります。

今回、松井田町教育委員会及び中之条町教育委員会の御協力のもと、本年度のぐんま近代化遺産活用事業のまとめをすることになりました。本報告書が県内における近代化遺産の保存と活用に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、本事業の実施に当たり、御支援・御協力を賜った地元関係者の皆様及び御執筆いただいた関係各位に感謝申しあげあいさつといたします。

# 近代化遺産とは（講演要旨）

県教育委員会文化財保護課

課長補佐 若林宏宗

## 1. 近代とは

この際、「近代」とは何か、から確認してみたいと思う。『広辞苑』によると、①近ごろ、現代。②（modern age）歴史の時代区分の一。広義には、近世と同義で、一般には封建社会のあとをうける資本主義社会についていう。日本史では、明治維新から太平洋戦争終結までとするのが通説、とある。西洋史での近代は、①ルネッサンス以後の時代（中世と区分）。②17・18世紀の市民（ブルジョワ）革命以後の時代、ということで、日本でいう近代とは、特に①では時代が大きく異なり、定義も多少違う。しかし、いずれにしても「近代」とは、市民が封建社会から開放され、自由な経済活動を開始した時期からを言うと思われる。

日本の近代について、中村光夫は「何か非常に偉いような時代」といい、亀井勝一郎は「地獄といつてもいい時代」といっている。近代に対するこの両極端な見方は、一般人にとっても立場により、見方によって同様に混在するであろう。中村説からみれば、発達した文明を取り入れて大きく飛躍した時期、ハイカラな西洋文化を吸収して日本が先進国の中間入りをした時期なのであろう。この「何か非常に偉いように」みえた近代における西洋文化への憧れやコンプレックスは、一世紀を経た現在も、日本社会に根強く残っていると思う。デパートを筆頭に西洋語を使う商品への弱さ、価値以上の西洋ブランド品の評価、無思慮なクリスマス・バレンタインデーなどの騒ぎ、行事・解説書などに氾濫する西洋語・・・など。亀井説では、急激な社会の変動の中で、新時代の恩恵に浴するどころか、時代の底辺で喘いでいた民衆が、眼から離ないのであろう。日本の近代化は、あまりにも性急に成し遂げようとしたために、一面では地獄であったかもしれない。女工、小作人、伝染病患者、鉱毒、・・・など。

日本でいう近代建築は、初め「明治建築」といったが、現在の定義は「幕末・明治以降太平洋戦争終結までに西洋の技術の影響を受けた建造物」となっている。そして、戦後のものは「現代建築」という。ここで、冒頭の広辞苑の②（modern age）が気になる。私の概念では、モダンというと「現代」であり、建築の定義と同様に「近代」の後の「現在及びそれに近い時期」である。しかし、英辞書では、modern の説明が「近世〔近代〕の、現代の」とあり、modernist は「現代主義者」、Modern English は「(1500年以後の)近代英語」である。つまり西洋では、近代を広義で近世と同義で使い、一方、現代と同義で使う場合も多いのである。なお、西洋の現代は、第一次世界大戦以降としている。

ところで、この稿でいう近代化遺産は、日本に限ってのことである。したがって「近代」についても、広辞苑の定義では②の後半、狭義の「日本史では・・・」に限定したい。

## 2. 近代化とは

『日本語大辞典』によると、近代化は「社会全体が人間性や合理性を重んずる状態に移行すること。資本主義化・産業化・民主化・情報化などの諸側面を指標とする」と定義されている。既述の近代建築の定義にみられるように、日本にとっては「西洋化」も大きな側面である。「一化」というのは、形や性質が変わることをいうのであろうが、前項で定義した日本の「近代」は未だかつてない、形や性質の大きな変革をもたらした。

また、先の広辞苑での近代は「明治維新から」としているが、日本の近代化は、近代建築の定義のように「幕末・明治以降」とした方が適切であろう。たしかに政体が変革したのは明治維新であるが、江戸時代も後期に入ると「近代化」の様相を呈していたとみられる。例えば、石門心学の祖である石田梅岩の理論には資本主義化がみられ、米沢藩主の上杉鷹山は社会（藩）全体を人間性や合理性を重んずる状態に移行させ、産業化を実現している。伊能忠敬の「大日本沿海実測図」は、この時代では世界的にみても極めて精密で、まさに「近代地図」といえる。

しかし、日本の近代化は、いうまでもなく明治政府によって強力に、急激に進められた。政体や社会の近代化、あるいは殖産興業、富国強兵策などである。そして、その多くは西洋化によるところが大である。したがって、明治政府は近代化の重要な組織編成や大きな工事には、西洋人の専門家（技術者）を雇って対処した。東京の銀座界隈の近代化街区設計などは、流れ者の西洋人設計者だったという。群馬県では殖産興業の例に、官営の模範工場として全国で最初に造られた富岡製糸場があり、また、交通体系の近代化と日本海側の防衛強化のために急ぎ建設されたといわれる碓氷峠鉄道施設など、大規模な近代化の遺産があるが、いずれも西洋人が設計に加わっている。

一方で、古くから培われてきた日本古来の技術も、まったく押し去られたわけではなかった。例えば、旧群馬県衛生所（擬洋風）のように、日本古来の技術で西洋の形をした建造物を建築するということもやってのけた。しかし、生産能力においては、西洋の機械化には及ぶべくもなかった。針の生産などでは、手製と機械化では数千倍から一万倍ほどの差があるという。日本の近代化は、機械文明に圧倒された変化でもあった。

近代化の功罪も整理しておく必要がある。今日の日本の繁栄は、ほかならぬ近代化のお陰である。安定した民主政体、教育の普及、保健・医療の発達、正確な情報の受・発信、豊かな物質社会の享受など、数限りない。しかし、あまりにも急激な西洋文化の吸収のために、日本の誇るべき文化をどこかへ置いて来てはいないだろうか。資本がないために衰退していった優秀な技術もあったのではないか。機械力にものをいわせた開発で、かけがえのない自然を失い過ぎていないだろうか。近代化遺産に接する場合、ただ遺産だからよしとするだけでなく、その近代史上の影響も考えたいものである。

## 3. 近代化遺産とは

近代化遺産の定義を一口でいうと「江戸時代末期から第二次世界大戦終了時までに産業、交通、土木等に関わる近代的手法でつくられた建造物（各種の構築物、工作物を含む）」となる。近代的手法は、最初は西洋人の指導や助力によらなければならなかつたが、次第に西洋の技術を吸収して自立し、

後半には日本人の独創の手法でも西洋のものを上回る手法も出てきた。このような建造物で、現在残存しているものを「近代化遺産」と呼ぶ。文化庁の造語である。かつては、「産業遺跡」といわれ、それを対象に研究することを「産業考古学」などと呼んでいた。

群馬県は秋田県とともに、全国に先駆けて「日本近代化遺産総合調査」を平成二・三年度に実施した。平成元年6月に、私は文化庁建造物課の調査官から調査を開始する依頼（手紙）を受けたが、それには「近代の産業・交通・土木文化財（建造物）に関する緊急調査」とあり、「近代化遺産」とは書いてなかった。その前年、文化庁の建造物課長が来群した折りに、この調査開始の構想を聞かされ、全国最初でやってくれないかと言われた。平成三・四年度に「諸職調査」が予定されていたので躊躇したが、妙義神社の大きな保存修理でお世話になっている最中であり、結局引き受けた。

そして、「近代化遺産総合調査」の語が正式に使われたのは、元年度末の国の補助事業ヒアリングからだったと思う。前述のとおり、「近代」「現代」の解釈にはひっかかりが多少あるものの、日本では「近代」は概念統一が比較的出来ている言葉であり、「近代化遺産」も何となくわかる語である。先の「近代の産業・・・」に比べて短く、普及しやすかったのではないかと思う。文化庁造語のヒット作であろう。

ところが、いざ調査対象を検討しようとすると、どこまでが近代化遺産の範囲となるか、前近代とのつながりはどうなるのかなど、新しい語で、「近代化遺産」は確定した概念規定がなかっただけに、つかみどころがなかった。所在リストアップの第一次調査は市町村にお願いすることになっていたが、市町村担当者の困惑が容易に想像できた。そこで、調査年度に入った平成2年5月の、例年開催している市町村文化財行政担当者研修会で、この道の大家である村松貞次郎・清水慶一両先生に、近代化遺産の定義や実例などを講演していただいた。

文化庁では、秋田県とともに担当者による数回の討議を重ねた。また、現在の産業中分類では区別できないこともわかった。その結果、冒頭のように定義し、報告書のとおり、産業・交通・土木に限らず、医療・教育・行政等も含めた群馬県独自の分類を決めたのである。近代化遺産は、近い時代ゆえに重要視されないこと、市街地の中の地代が高い所に多いこと、まとまった面積を有する場合が多いことなどから意外に消滅が早い。しかし、現代に直結する貴重な歴史の生き証人であり、身近にある。群馬県は近代化遺産の宝庫なので、近代以前の文化財とともに、一つでも多く後世に残せるよう努めたいものである。

# 碓氷峠鉄道施設見学会実施要項

(平成5年度ぐんま近代化遺産活用事業 松井田会場)

1. 趣 旨 本県では平成2・3年度に「群馬近代化遺産総合調査」を全国に先駆けて実施し、平成4年度からは県内に存する近代化遺産の保存と活用を目的としたぐんま近代化遺産活用事業を実施している。こうしたことから、近代化遺産に対する県民の関心が高まっているが、この度、平成5年8月17日付けで碓氷峠鉄道施設が国の重要文化財に指定されたので、一般県民を対象にした見学会を実施し、近代化遺産に対する理解を深めていただくとともに、近代化遺産の保存と活用について考えていただく機会とする。

2. 主 催 群馬県教育委員会 松井田町教育委員会

3. 日 時 平成5年10月3日(日) 小雨決行

第1班 9:30 松井田町役場集合

13:30 松井田町役場解散

第2班 10:40 松井田町役場集合

14:40 松井田町役場解散

4. 概 要 松井田町からマイクロバスで熊の平へ移動する。そこから徒歩で「めがね橋」等を見学する。(昼食、各自持参)見学が終わったら、マイクロバスで西松井田駅か松井田町役場へ移動して、解散。(約5キロのハイキングとなる)

5. 参加費用 無料(ただし、参加者は国内旅行傷害保険に加入しますので一人200円、負担してください)

6. 参加申し込み 松井田町教育委員会社会教育課まで電話で申し込む

(☎0273-93-1111 内線227)

9月20日(月)～9月24日(金)まで受付

7. 定 員 70名(先着順)

8. そ の 他 (1) 参加決定者には、後日、詳細な案内を送付する。

(2) 問い合わせ先 松井田町教育委員会社会教育課

(3) 参加者には、文化財の保存と活用についてのアンケートをお願いします。

## 当日の流れ

第1班 9:11 西松井田駅着(高崎発 8:39)

9:30 松井田町役場集合

9:30 参加者受付(保険料200円徴収)

9:35 開会行事

主催者あいさつ（荒畠文化財保護課長）

（松井田町教育委員会）

講師紹介 （松井田町教育委員会）

講師は 佐藤義一氏

（松井田町文化財調査員）

9：40 役場発（町のマイクロバス）

緊急用軽自動車同行

10：20 熊の平着

行程説明・注意事項（松井田町教育委員会）

碓氷峠鉄道施設浅学（ハイキング）

11：40 第3橋梁（昼食） 記念写真撮影

12：20 出発

13：00 マイクロバス乗車 点呼

車中で閉会あいさつ

主催者あいさつ（荒畠文化財保護課長）

（松井田町教育委員会）

13：25 西松井田駅着（電車利用者下車 13：41高崎行）

13：30 松井田町役場着 解散

第2班

10：22 日松井田駅着（高崎発 9：56）

10：40 松井田町役場集合

10：40 参加者受付（保険料200円徴収）

10：45 開会行事

主催者あいさつ（田口総括課長補佐）

（松井田町教育委員会）

講師紹介 （松井田町教育委員会）

講師は 中屋 栄氏

（碓氷線探求会）

10：50 役場発（町のマイクロバス）

緊急用自動車同行（ファーゴ）

11：30 熊の平着

行程説明・注意事項（松井田町教育委員会）

碓氷峠鉄道施設見学（ハイキング）

12：05 第5橋梁（昼食） 記念写真撮影

12：45 出発

14:10 マイクロバス乗車 点呼

車中で閉会あいさつ

主催者あいさつ（田口総括課長補佐）

（松井田町教育委員会）

14:35 西松井田駅着（電車利用者下車 14:55高崎行）

14:40 松井田町役場着 解散



松井田町役場にて（主催者あいさつ）



第10トンネルにて

# 松井田町の近代化遺産(1)

## — 碓氷峠鉄道施設 —

松井田町教育委員会社会教育課課長補佐 清水 博

碓氷峠鉄道施設とは、群馬県と長野県との県境、碓氷峠に明治26年（1893）4月1日、幹線鉄道としての信越本線横川～軽井沢間の11.2kmが開通し、以来、昭和38年（1963）9月28日までの70年間にわたって山岳鉄道として用いられた、旧碓氷線（横川～軽井沢間をいう。）軌道敷跡に残された鉄道文化遺産である。これらのうち、煉瓦造りのアーチ橋5基が、平成5年8月17日、「近代化遺産」としては、我が国最初の国指定重要文化財となった。

### 碓氷峠の鉄道変遷

碓氷峠は、日本の東西、さらには表日本と裏日本とを結ぶ位置にあり、古くから交通の要衝として発展して来た。また、東山道がこの峠を通ったとも言われているが定かではない。東山道から中山道はなり、この峠に「碓氷の関」が設けられたことからも、この地がいかに重要であったかが伺える。

江戸時代の輸送手段は人馬が主であったが、明治地代に入ると道路の整備も進み、交通機関の変革は鉄道馬車へ移った。

明治20年（1887）「碓氷馬車鉄道株式会社」が設立された。この馬車鉄道は、すでに開通していた高崎～横川間の鉄道をさらに延長し、横川～軽井沢を結ぶ画期的な交通機関として、翌明治21年（1888）9月に開業した。

やがて、この輸送手段にも限界があり、多くの旅客や物質の輸送には鉄道の建設という課題が生じた。

明治政府は、東京～横浜間の鉄道が開通すると、日本の東西を結ぶ幹線鉄道の建設計画が論議され、中山道筋も幹線鉄道として、上野～高崎、高崎～横川と次々に開通し、また一方直江津からも軽井沢までの開通となった。残るは横川～軽井沢間の「碓氷線」の建設となった。

碓氷線は急峻な峠越えであり、1000m進むのに、66.7m上昇する急勾配のため、ドイツのハルツ山鉄道で採用したアプト（＝アブト）式歯軌条（ラックレール）と普通軌条の併用方式を取り入れた我が国で最初のアブト式鉄道である。

この鉄道の建設は、工期1年9ヶ月、総工費200万円弱で、明治26年（1893）4月1日の開業となつた。

当時、蒸気機関車は連続したトンネルを低速で通るために、乗務員や乗客は煤煙に悩まされ続け、乗務員の窒息事故も多発したという。このためトンネルの入口には、ずいどう番と称した引幕番を入口に配し、列車が入ると同時に幕を引き、後方からの空気の流入をさえ切ることにより、煤煙が列車とともに移動せず事故も減少したという。やがて輸送力の強化とスピードアップの必要性から鉄道院は、碓氷線の電化を決定し、明治45年（1912）5月、この峠に電気機関車が運転された。これが我が国最

初の山岳鉄道の電化であった。

電化に伴い、電力の供給基地として、横川火力発電所、丸山変電所、矢ヶ崎変電所が次々に建てられた。

昭和30年代に入ると高度経済成長のなかで、鉄道の旅客需要も増加するなか、より強力な電気機関車への技術改良、さらには、トンネル・橋梁の老朽化などの問題が生じ、旧線に替わる新設の建設となり、昭和38年（1963）9月、70年の歳月を経たアプト式鉄道は姿を消したのである。

### 碓氷峠の鉄道文化財

碓氷峠の廃線敷に残された鉄道遺産のトンネルや橋梁は一部を除いて殆んど当時の姿で残っている。この多くは、坂本～熊の平間の国道沿線添いに集中している。

今回、国重要文化財として指定されたのは、碓氷第2、第3、第4、第5、第6の煉瓦アーチ橋5基であり、これらは車窓から眺めることもできる。

碓氷峠はカーブの連続で、角々にはカーブ番号の標識が設置してあるが、このC=33には通称「めがね橋」の碓氷第3橋梁の雄大な姿が現われる。この橋は碓氷線で最大の構造物であるばかりでなく、国内においては他に類を見ない最大な煉瓦アーチ橋で、全長約91m、高さ約30mの四連アーチからなっている。さらに峠を上って、C=69の標識のところに、第6橋梁が見える。この橋は、第3橋梁に次ぐ規模のもので、フランス調といわれている。又、橋梁のほか、トンネルも随所に見られるので、C=9からC=69までのカーブ番号の間は注意してほしい。

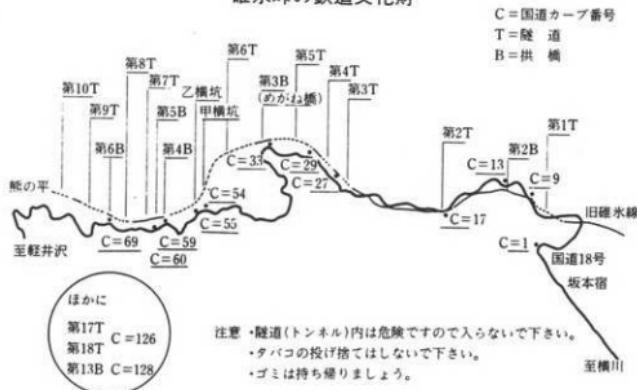
先に述べたが、これら橋梁5基は、平成5年8月17日、「近代化遺産」では全国初の指定となった。又、この年は碓氷線が開通して百周年、さらには、この施設を松井田町が購入し保存することが決定した年でもあった。

参考文献 「信越本線横川駅周辺鉄道文化財調査報告書」  
(高崎財務事務所地域振興室・松井田町、平成2年3月)



めがね橋

### 碓氷峠の鉄道文化財



## 松井田町の近代化遺産(2)

松井田町文化財調査委員 佐 藤 義 一

松井田町の近代化の遺産は、『群馬県近代化遺産総覧』(平成3年度県教委)の報告書で明らかのように、町内24箇所が数えられ、その中で23箇所が交通に関するものである。明治時代にはじまる近代化の夜明けは、信越本線の構築物の建設から始まった。

なかでも、信越本線の橋梁が半数を占め、駅舎1、跨線橋台1、車両1、石碑2、貯水槽1、変電所1、旧碓氷線油送管1、火力発電所1、警察署1が目立ち醸造1他に医院がある。この中には、平成5年8月に国重要文化財に指定された碓氷線の橋梁5基(第3橋梁など)が含まれ、文化財や観光面などで多くの人々が注目するところとなった。

ここでは、碓氷線以外の「松井田町の近代化遺産」について述べ、その脇役としての役目を果したものの大槻を主に記し、ぐんま近代化遺産活用事業の報告書としたい。

### I 鉄道関係の遺産

① 招魂碑 これは碓氷峠の鉄道建設で犠牲となった人たちの魂を招いてまつる碑である。

明治24年3月から工事が始まり、このトンネルや橋梁を含む難工事を1年9か月で完成させた。横川郵便局北東の小高い道端に、いまなお列車の安全を見守っている。

② 碓氷嶺鉄道碑 明治26年4月開通に伴い、山縣有朋の篆額で建碑され、「阿武止」や工費、技師名などが刻まれ、熊の平駅跡の北方の岡から列車の通過を見守っている。

③ 横川火力発電所用水池 碓氷線が蒸気機関車から電気機関車に切換えられるに伴って横川の霧積川沿岸に、大正元年(1912)国鉄自営の最初の発電所として建設された。建物はレンガ造りで、ボイラ、タービン、発電機などの記録も保存され、コンクリート造りの貯水池跡が現在残されている。これは蒸気タービンの冷却水に主に使ったと言われている。

④ 旧碓氷線S L(蒸気機関車)用給水タンク 明治18年高崎—横川間の鉄道開通に伴って、蒸気機関車のボイラー用水のため、レンガ造りで建設された。取水した沢の水は水質がよく、駅から十数米の高所なので、自然流下式で水を供給した。亀裂もあるが残っている。

### II 民間関係の遺産

① 西毛電気第一(高芝)発電所 明治36年西上州では、高崎水力電気会社が鳥川に室田発電所を建設し、高崎方面に電灯をともした。碓氷川に沿った中山道の町村でも、明治42年西毛電気(川久保)発電所をつくったが、同43年の水害で流失した。再び霧積川上流の高芝へ第一発電所をつくった。その跡地が面影を残しているが、あまりはっきりしない。

② 西毛電気第二(坂本)発電所 大正年代になると電灯供給数は2年間で2倍に増加し、供給地も拡大した。そこで大正4年に碓氷川から取水する第二発電所を完成させた。工事は2年間を要し、

現在の碓氷湖の場所から取水し坂本城のあった岩山をトンネルで抜き、雨霧沢地内に発電所をつくり営業を開始した。現在トンネルとレンガ施設の一部が残っている。

③ 碓氷電気（中川）発電所 明治37年鳥川沿いの村々と高崎に電灯がともり、明治44年には碓氷川沿いの町村に電灯がともった。その中間にある九十九川流域の村々はランプの生活だった。そこで大正8年（1919）増田川上流の中川から取水して出力50キロワットの発電所を木馬瀬に建設し、細野・九十九・後閑の村々へ電灯をともした。現在その取水口や発電所跡が残り、当時の営業報告書なども保存されている。なお松井田町地内では小日向方面は大正9年に小日向発電所を設立し、この地域に電灯をともしていった。この①～③の電気会社は地域の人が株主となり、民力によって電灯を点じ生活の中に近代化を取り入れていった。

### III 酿造・医院関係の遺産

① 群馬酒造九十九工場 松井田町大字小日向で慶応3年創業、明治5年に酒造を開始した。工場は木造であるが、レンガ造りの大きな煙突や麹室（こうじむろ）は明治22年ころ建設された。酒造の道具の多くが保存されているが明治40年ころからのものと言われている。当時は酒造業の多くが転業する中で、近代化を早く取り入れ発展させたことは注目すべきである。

② 武井産婦人科医院 木造2階の洋風的な建築で、屋根は色瓦で葺かれ、外壁は明るく、窓は上り下りするフランス窓、玄関も印象的で、昭和2年に民間の医院で建築技士の設計によって、大正時代風の近代的な建築を取り入れた。当時としてはめずらしい建物である。

### IV 行政関係の遺産

① 旧松井田警察署 現在では町商工会館となっている建物で、松井田町大字新掘に昭和14年ころ建築された。木造2階建瓦葺入母家で妻に懸魚が付いている。外壁は明るく腰部までは人造石洗い出し、その上がタイル貼りで、上げ下げの細長い窓がついている。当時の近代的建築の様式が地方の町まで浸透した建物として注目されている。

### V まとめ

松井田町の近代化は、その構築物の遺産から知られるように、鉄道の建設からはじまり、民間では電気会社を株式の民力で設立し、電灯を点じていったことである。醸造では地酒の多くが転業する中で、近代化を取り入れ発展したことに注目され、医院も洋風を取り入れ、行政では警察署の近代的建築の様式が地方に及んだことを立証している。

今回、碓氷峠の近代化の活用事業による見学は、改めて近代化の取り入れやその遺産としての価値を見直すことができた。それに計画通りに進行し、楽しく終了することができた。

今後は、この現場での研修は業績として高く評価され、近代化遺産に対する理解を一層深め、その保存と活用について考えて行く方向に進むであろう。



西毛電気第二発電所の取水トンネル出口跡（坂本）



旧松井田警察署（現在は松井田商工会館）

## 特別寄稿

# 刻苦100年、旧碓氷線の想い出

佐藤 總治郎

信越線の上野から横川までは明治18年10月、軽井沢から直江津までは明治21年12月に鉄道が開通しましたが、碓氷峠をはさんでの横川と軽井沢との間はけわしい山道なので鉄道を敷くことがむずかしく、とり残されていました。旧碓氷線の最初の測量が行われた明治17年から、最終決定の明治24年2月4日まで7年の歳月を経ました。廃駅となった熊の平上りホームに碓日嶺鉄道碑（606字よりなっている）が建立されています。碑文の説明を時間をかけて読んでみると碑文の要点として、碓氷峠の位置、地勢、調査、工事工程等が判り易く書き込まれています。入山道、和見道、中尾道が建設の対象になっており、東京と京都を結ぶ重要なルートであった中仙道に沿っての鉄道が必要とされ、建設方法をいろいろな角度から7年間検討しておりましたが、ドイツに留学中の仙石貢氏「後の鉄道大臣」から、スイスのハルツ山鉄道で急勾配にアプト式を用いているという報告があり、さっそく最終的に中尾道を採用することにしました。工事着工は明治24年3月、完成は明治26年1月でした。明治26年4月1日、横川・軽井沢間に蒸気機関車3900型を使用して営業運転を開始しました。平成5年4月1日で碓氷線も開業以来100周年を迎えることになりました。私が乗務していた昭和25年頃、大先輩の蒸気機関手の苦労話を時々聞く機会がありました。煙による機関車乗務員の疲労度は高いものがあり、火夫の健康管理までやっていたようで、蒸気の上がり下がりでその状況を判断したそうです。蒸気がさがると、列車は66.7バーミルの急勾配で止まったりバックしたりして非常に危険であったので、それは真剣になったことです。「当時の峠を上り下りする乗務員は、みな空気の味をよく知っていたようです。トンネルに入ると鼻の上にタオルを三重にまいても真黒になってしまい、苦しさにおそれて呼吸困難になり、窒息状態になることもしばしばで、あまりの苦しさにタラップの下まで降りて力つき、転落して自分の機関車にひかれるというケースもあったほどです」と当時の模様を語気を強めて説明していただいた記憶は忘れられません。ばい煙と蒸気に苦しめられた時代とも別れを告げ、明治45年5月11日、我が国最古の電気機関車10000型「E C 40」12両が配属され電化運転となりました。この機関車は第92回鉄道記念日、昭和39年10月14日に鉄道記念物に指定されました。現在、軽井沢駅前に展示され、往時を偲ぶものとして多くの人々が関心を寄せております。明治26年4月1日より昭和38年9月30日迄の70年間アプト式運転が続きました。西の箱根と称せられる天下の剣として多くの人に碓氷峠は知られています。最急勾配66.7バーミル、トンネル26ヶ所、橋梁18ヶ所、横川駅標高386.6メートル、軽井沢駅標高939.1メートル、標高差553メートルある急勾配を登る難所に「エントランス」英語で単なる「入口」の意味しか持たないこの2字は、アプト区間を運転した者にとっておそらく生涯いっときも忘れることのできないものであったでしょう。これはエントランスに関係する事故がアプト式が廃止される直前まで間欠的に発生し、「絶対安全」と安心できる運転上の施策がなかったことからも充分うなづけるものでした。エントランスとは、アプト式軌道区間の仕組のこと

とで、低い歯から始まって本軌条になるまでの5メートル足らずのラック軌条のことです。この「入口」が下り列車では丸山、熊の平の2箇所、上り列車に対しては矢ヶ崎、熊の平の2箇所と合計4箇所ありました。ラック区間の進入速度は下り列車では10キロ以内、上り列車は5キロ以内と定めていました。進入速度は単独制動弁「機関車のみのブレーキ」を小刻みに使用、速度調整をしなければなりません。進入に際し4人乗務の機関士の協調運転が絶対必要条件でした。いかに入口の進入が困難であったかを物語っています。下り列車では第三補機、上り列車では本務機関士の取扱いが列車運転の良否を左右しました。不幸にもブレーキ扱い及び主幹制御器の扱いによりエントランスに乗り上げた事故もありました。保線係員が丸山、熊の平、矢ヶ崎の各詰所に昼夜詰めており、エントランス歯軌条の予備品を備えておき、乗り上げ事故の時は直ちに交換出来るようになっておりました。万一の時は直ちに保線係員に報告し乗務終了後、係員の処に出向き謝罪しました。入口の扱いによっては66.7パーセントの急勾配に停止し、列車の起動に大変苦労した体験も何回かありました。碓氷線を運転する機関士のもっとも神経を使う入口も、昭和38年9月30日限りでアプト式廃止で解消されました。70年間にわたる日本列島の太平洋側と日本海側を結ぶ輸送に貢献した功績をたたえ、「刻苦70年歴史碑」が昭和38年11月30日アプト式廃止の記念として建立されました。今静かに当時を想い出すと、緊張の連続に辛抱強く耐えてきたものだと思います。アプト式が廃止されてより31年すぎた今も尚、エントランス進入時の起立作業で主幹制御器の「準備位置よし」と指差確認した夢を時々みます。昭和38年10月1日より強力なるE F63型電気機関車が配属され、粘着運転となりました。重連でスマートな特急電車との協調運転によって、車窓の景色を楽しむいとまもなく、下り列車17分運転で一気に軽井沢駅に到着します。昭和時代を振り返ってみると、数々の想い出が沢山あります。115年の歴史を誇った「日本国有鉄道」が、昭和62年3月31日限りで幕を閉じました。目で見る昭和史として、又、私の生活の糧となってくれた国鉄時代に41年間一筋に旧碓氷線の運転が、私の脳裏の底に今も尚、強く刻まれております。碓氷線の機関車の変遷及び運転方式は、鉄道技術の粋を尽くした発達の歴史であり、旧国鉄マン、JR社員の血のにじむ努力の結晶であります。JR横川運転区は、昨の為に生まれた貴重な財産であり、横川の町は、そこで働く人の町でもあります。開業100周年の記念すべき年に旧碓氷線の第2橋梁、第3、第4、第5、第6橋梁が、平成5年8月17日に、橋梁としては我が国初めての近代化遺産「国重要文化財」に指定されたことは誠に意味深いものと思います。指定を受けたことは、県及び町当局者の並々ならぬ配慮とふるさとを愛する気持から実現いたしたものと理解します。



S56年1月23日(金) 15:30分  
EF638号電気機関車に乗務している筆者



電気機関士と電車運転士との間で無線連絡をとりながら  
横川～軽井沢間下り列車を運転する筆者

## 見学会を実施して

松井田町教育委員会社会教育課主事 田 口 修

旧碓氷線とは、横川～軽井沢間の碓氷峠を走っていた鉄道の呼称であり、新線以後、旧線の大半はその役目を果たし山中にひっそりと眠っている。有名な「めがね橋」は旧18号線を走りながらその勇姿を眺めることが出来、関係者や鉄道マニアでなくとも目にした方は多いのではないかと思う。かく言う私も、仕事として旧碓氷線に関わらなければ、めがね橋以外の橋やトンネルを知る由もなく、明治期の混沌とした社会の中で成し遂げられた西洋建築の素晴しさを身近に感じられなかった筈である。

「近代化遺産総合調査」を契機として急速にクローズアップされた本文化財は、開業100年にして再び陽射しを浴び、私達に往時を偲ばせ始めた。今回の活用事業は所謂見学会であった訳だが、県内各地より大勢の参加のもと、充実した一日を送ったように思う。それは、幾度か軌道敷を歩いている私自身が、説明員の先生方のお話で改めて知った鉄道の知識や本線にまつわるよもやま話などで楽しめたことである。地元の人間として、数十年前の郷土の話はより身近に思え、また「知っておくべき」事の様な気がした。そして、それ以上に有意義なのは、家族や参加者間の親睦を深める場として文化財が活用出来たことである。文化財はどちらかというと地味な存在である。関係者はともかく、一般的にはあまり話題に登らない事の方が多いなかで「碓氷峠の鉄道文化財」が参加者の心に残り、再度この地を訪れようと思って頂ければ、文化財行政に関わる者としてこの上ない喜びである。現在残っているレンガ造りの橋やトンネルは、素人の私の目には美術品的な印象が強いが、元運転士の方などは苦労話を誇りをもって話していた。また、付近を駆ける猿の親子に目を止めたり、建築の方法はどうしたか、など馳せる思いは人それぞれである。そして、めがね橋をはじめとする鉄道文化財の存在価値もまさにそこにあろう。

近代化遺産として初の重要文化財指定となったのは大変名誉なことであり、文化財の保存活用に向けての大きな一歩であることに間違いはない。しかし、多くの方に「想い出づくり」の場としてもらうために成すべき課題も非常に多いのではないか。一関係者としてそんな事をふと感じてしまう私でした。

「遺跡ガイドを夢みて」

「伝えたい人間の歴史」 18 頁は

個人情報が含まれるため非公開

平成5年度ぐんま近代化遺産活用事業（中之条会場）実施要項

中之条盆地の近代化遺産をたずねて  
—見学会と講演会—

1 趣 旨

群馬県教育委員会は、平成2・3年度に群馬県近代化遺産総合調査を実施した。そして、平成4年度からは県内の近代化遺産への関心を高め、その保存と活用について県民の理解を深めることを目的にぐんま近代化遺産活用事業を実施してきた。本年度も松井田町での「碓氷峠鉄道施設見学会」に引き続き、中之条町を中心に近代化遺産について学ぶ機会とする。

2 主 催

群馬県教育委員会・中之条町教育委員会

3 日 時

平成5年11月14日(日) 午前10時から午後3時ころまで

4 会 場

中之条町役場（集合、解散）

5 参加者

県民一般

6 見学地

中之条町

- ・旧吾妻第三小学校（県指定重要文化財、かつて中之条町役場としても使われた。）
- ・道路元標（重要交通史跡、群馬県土木部の指令により建てられたもの。）
- ・第20大区長役所（廃藩置県の後、吾妻郡役所が発足するまで使われた。）
- ・久保田旅館（明治時代に建てられて、現在も旅館を営んでいるもの。）
- ・旧中之条町信用組合（大正時代に建てられたもの。現在もJA中之条支店として使われている。）
- ・光山倉庫（大正時代に建てられたレンガ作りのもの。当時は木炭を保管していた。）
- ・名久田橋（昭和9年につくられたもの。）
- ・小林貞夫家（明治に建てられた大規模な養蚕農家。）

吾妻町

- ・吾妻教会堂（大正時代に建てられたもの。）
- ・群馬原町駅（昭和20年に建てられ、現在もそのまま使われている。）

高山村

- ・名久多教会堂（明治20年に建てられた教会。農村部では珍しい。）

吾妻東村

・ロックフィルダム（明治43年のダム。箱島水力発電所として発足。）

7 日 程

10：00 中之条町役場  
開会、スライドによる見学箇所の説明、資料配布等

10：30～12：00 現地見学（徒歩または自家用車）

12：00～13：00 昼食（中之条町役場ほか）

13：00～14：00 講演「近代化遺産とは」

群馬県教育委員会文化財保護課課長補佐 若林宏宗

14：00～15：00 感想発表など

15：00 閉会

8 参加申し込み（電話または葉書）

中之条町教育委員会 社会教育課

☎0279-75-2111 内線261

9 その他

(1) 参加費は無料 ただし傷害保険料100円は自己負担

(2) 雨天決行

(3) 昼食は各自持参

(4) 各見学箇所では、原則として中之条町・東村の文化財専門員が説明する。



旧吾妻第三小学校

# 中之条町の近代化遺産(1)

中之条町歴史民俗資料館長 唐沢 定市

## 1. 中之条盆地の近代化

県の西北隅に位置する吾妻郡は、上信越高原国立公園の区域にあって県総面積の20%に当る1,278km<sup>2</sup>の広さに県人口の4%の住民が住む。約8割は山地であり、県境付近は2,000m級の山々があり、南方には榛名山連峰が連なった郡内を西から東へ貫流する吾妻川が流れ、中流に中之条盆地を形成している。古代の吾妻郡衙や、「和名抄」にみる長田・伊參・大田の吾妻三郷も中之条盆地にあったと推定される。中世・近世を経て、近代吾妻郡の成立について次のような特色を考慮する必要があろう。

①自然条件として、山間地にある吾妻地方は、水田が少なく畠地中心の農業であり、麻・桑などの栽培がなされている。②浅間・白根の二大火山の活動もあり、温泉が多い。中でも草津温泉は天下の名湯として室町時代より有名であり、近世以降は湯治客が増加し、公家・武士・学者など文人墨客の入湯者があり、高野長英の弟子たちによる吾妻蘭学の興隆となる。學問藝術への関心が培れていて、キリスト教なども含めて文明開化の波を受け入れる素地をつくっていた。③中世の吾妻地方の領主斎藤氏が没落し、真田氏支配となるが、一国一城令(1615)によって岩櫃城破却・城下町平川戸の移転(原町の成立)そして天和元年(1681)真田氏改易となり以降は天領や旗本領となっている。このことは、吾妻地方の人たちの気質を形成する上で大きな影響を与えていた。④上野国の西端にある吾妻地方に、東を意味する「吾妻郡」という名称がついた。これは郡名成立の時代に、東国への入口であったことに由来する。近世に入り中山道の脇往還として往来する信州街道は、善光寺詣や温泉湯治の浴客でも賑わった。幕末に中居屋重兵衛や加部安左衛門などの在郷商人の出現は、近代吾妻郡成立に影響を与えている。

## 2. 旧吾妻第三小学校(県指定重要文化財)

(1)所在地 中之条町大字中之条町947-1 (2)年代 明治18(1885)年建立 (3)構造・形式 木造二階建、寄棟造、瓦葺(現在は鉄板瓦葺) 大壁造り白しっくい塗、建築面積317.4km<sup>2</sup>・床面積632.8m<sup>2</sup>、間取りは一階(普通教室3・教員詰所・応接室・小使室・工作室・玄関・廊下)、二階(図書室・裁縫室・生徒控室)。(4)設計者 不詳、明治15年8月に出された「群馬県小学校建築心得」に基いて凹型のプランによって建てられている。(5)施工者 大工樋田栄太郎(中之条町)・石工小林兼吉(原町)・袖工・左官・瓦工・鳶・建具師等については不詳。大工・石工についても関係者口述による。

明治維新による教育の近代化政策として、明治5年(1872)「学制」が公布された。全国民を対象とした国民皆学の目標は、国家主義的な立場から国家の富強と国民の福祉の増進であった。学制は、全国を8大学区・32中学区・960小学校区に区分し、それぞれ各校を設ける。文部省は、まず小学校の設置に力を注いだので、それまでの寺子屋・私塾・郷学校などを母胎として小学校が設立された。中之条町は、明治6年10月第1大学区18番中学区173番小学校区に属して伊勢小学校が林昌寺に創立さ

れ、明治12年2月同校より分離して中之条小学校が町内の清見寺に開校された。明治15年頃より中之条小学校の新築への動きがあったが、翌16年3月町議会伍長合同会議の議題として審議された。明治18年（1885）2月、学区改正により第105学区吾妻第3小学校と改称し、同年1月より校舎新築が進められていたが、10月4日新校舎に県令代理森醇など来賓を迎えて開校式を行なっている。総工費5244円は、中之条町の年間予算の約3倍に当る金額であり、明治15年から隔年凶作であり、全国的な不況の中で建築費の大部分は町民の有志による寄附金をあてている。県令樹取素彦や吾妻郡長真野節（初代師範学校長）などの指導によるところも大きいが、中之条町民の教育に寄せる期待と熱意もまた厚かった。大正7年まで小学校として用いられたが、生徒の増加などにより小学校移転の後、中之条町役場となり昭和53年まで使用された。同年10月群馬県指定重要文化財となり、保存修理工事の後、昭和57年11月より中之条町歴史民俗資料館として現在に至っている。

### 3. 名久多教会

(1)所在地 高山村大字尻高字能野 (2)年代 明治20年（1887）9月 (3)構造・形式 木造平屋建、寄棟造、間口3間半・奥行5間・大壁造りで入口（玄関）上部に半円形の窓があり、窓の上部にしつくいで龍と波の浮き彫りを飾る。(4)管理者 有馬格之助

明治17年、安中の茂木一郎が布教、この教えに感銘した同村有馬俊平・都筑左金次・剣持源六等27名が受洗し、明治20年9月教会堂を建立した。会堂のプランは十字形であり、内部の長椅子などは、西部劇を見るアメリカ開拓時代の教会の椅子を思わせる。有馬俊平は、村長・村議などをつとめ、北毛農商銀行を創立、尻高牧場の経営をした。北毛農商銀行の役員は全員キリスト教徒であり、名久多教会堂はその拠所となった建造物である。

### 4. 吾妻教会（原町教会）

(1)吾妻町大字原町627 (2)年代 大正6年（1917） (3)構造・形式 木造平屋建、切妻造鉄板葺  
明治18年、山口六平が洗礼を受けた。山口家は町役人の家柄であり、県下三番目に原町小学校を開校させ、明治6年より学区取締をつとめている。六平は自宅の書院に安中の白石村治を招いてキリスト教の布教をした。明治20年3月原町教会が建立されたが山口六平の逝去によって衰えた。現在の建物は、大正6年川村善七等によって再建されたものである。

## 中之条町の近代化遺産(2)

中之条町文化財調査委員長 奈 良 秀 重

**5. 道路標識** (1)所在地 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町検察庁入口、(2)年代、大正11年(1922)、(3)法量、22.5cmの四角柱、地上高、48.0cm (4)明治11年7月郡区町村制編成法の公布により本郡は郡役所を中之条町に開設同12月17日に届出したのである。この道路原標の奥約100mの所である。昭和22年(1947)火災により家屋、資料共に全部を焼失その跡に中之条検察庁を建てている。すなわち吾妻郡役所跡である。道路標識は、大正8年(1919)に道路法が公布されたその3年後大正11(1922)群馬県土木部の指令により、郡役所から管下14ヶ町村役場までの里程を示すために設けられた。その時石造の標柱を原則とし木製でもやむをえないとした。そのため町村では全部木で建てたので、その基点となる郡役所のものだけが残されているのみである。

**6. 第20大区長役所(町田武彦家)** (1)所在地、群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町982、(2)年代 明治6年(1873)～明治11年(1876) (3)構造、木造2階建(役所は1階北側3部屋)。(4)明治5年(1872)第一次群馬県が誕生して22の大区と247の小区が設置され、吾妻郡は第20大区となった。その役所は高崎に近い現吾妻町大戸に置かれ、田中瑛一郎が最初の区長に官選された。熊谷県時代となり田中が県庁務めとなったので、大総代を務めていた町田重平が第20大区長に官選され役所が町田重平宅に置かれたのである。明治11年(1878)吾妻郡役所が開設されるまでの6年間この役所で行政が行われたのである。当時に使われた向いあいの事務机、罪人をせめるのに使われた「たたき石」が残されている。

**7. 久保田旅館** (1)所在地、群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町890-1、(2)年代、明治初年、(3)構造 木造三階建 (4)所有者 久保田茂雄 (5)久保田家の先祖は戦国時代白井城長尾氏の家臣であったが、故あって中之条町に移り百姓となった。江戸時代の後期に現在地に移ったという。享保年間には利根郡池田村の迦葉山龍華院弥勒寺の奥の院を建立した家である。明治のはじめ中之条小学校ができるのを機に現在の建物を建て下宿屋をはじめた。その後旅館業となり、大正時代の初めに三階を増築し、現在もほとんど改造しないで旅館として使っている。前面に掲げた看板はしっくいで造られためずらしいもので大正時代のものである。

**8. 旧中之条信用組合** (JAあがつま中之条支店) (1)所在地 群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町970、(2)年代 大正初～中期、(3)構造、木造2階建、切妻造、鉄板葺、(4)中之条町の中産階級以上の農工商家は銀行が金を貸してくれるが、中産以下のものは質屋、高利貸を利用するしかなかったので破産する家が多くかった。これを救う目的で柳田阿三郎の提唱により17人の出資者が集まり、明治35年9月1日中之条信用組合を設立事業を開始して大いに成績をあげ、大正時代に入り現在の建物を建築したの

である。その後幾度かの変せんを経て中之条農業協同組合となり、現JAあがつま中之条支店の事務所として使用されている。大正15年に高野長英の事跡を訪ねて来町した後藤新平が中之条信用組合のために揮毫してくれた額（中之条町歴史民俗資料館保管）が残されている。

**9. 光山倉庫** (1)所在地 群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町942、(2)年代 大正3年（1914）4月、(3)形式 レンガ造2階建1棟、平屋建1棟、(4)設計施工不明、(5)所有者 小潤ちよ、(6)大正3年4月、倉庫業、運送業、信託業の経営目的をもって「吾妻倉庫株式会社」を設立資本金2万円、レンガ造の大倉庫を建築したのは当会社が本町のさきがけと言っている。その後の経営の状況については不明であるが、昭和24年、小潤ちよ氏が購入して光山倉庫株式会社となった。当初は中之条一渋川間に軌道馬車が通行していたので吾妻郡内の産物をこれによって運送し信託販売したものである。当時はこの敷地内に軌道が引きこまれていた。

**10. 名久田橋** (1)所在地 群馬県吾妻郡中之条町大字横尾、平の間名久田川に架す、(2)年代 昭和9年（1934）、(3)形式 鉄筋コンクリート、(4)法量 長さ、33m、幅5.5m (5)名久田川にかかる橋ではいちばん古い橋である、ここは吊り橋であったが、昭和8年の春に荷物を積んだトラックが落ちて破損、通行不能となった。その後直ちに着工、6,700円の巨費をもって翌昭和9年3月に竣工をみたのである。昭和10年9月25日群馬県下をおそった最大級の台風があり、死者60数名を出し、ほとんどの橋が流失したが、この橋だけは無事であった。この橋は下名橋と言ったがこれを機に名久田橋となつた。らんかんの飾りの鋳物は太平洋戦争遂行のため供出され、穴があいたままである。

**11. 小林貞夫家** (1)所在地 群馬県吾妻郡中之条町大字赤坂642、(2)年代 明治9年（1876）(3)構造木造3階建 間口12間（22.6m）奥行6間（11.3m）、(4)設計 小林近吉、(5)施工 新潟県の大工、(6)明治初年に焼失、明治9年に建築した大型養蚕農家である。明治11年（1878）群馬県下内国通運会社（マルツウ）の1駅として運送業を経営、上村一赤坂一三国街道須川駅までの貨物の運搬を行ったが、三国街道霧ヶ久保峠の開さくによって荷物の往来が絶え明治17年（1884）10月廃業となった。その後養蚕業を中心とするようになった。県下最大級の養蚕農家である。2階の床は3cm（1寸）水もれのしないように「やとい実はぎ」となっている。3階は間口10間、奥行4間で床はスノコ張り、蚕の上蔟のときだけに使う、風とうしのよいように屋根に天窓（テンソウ）を3つ設けている。

**12. ロックフィルダム** (1)所在地 群馬県吾妻郡東村大字箱島、(2)年代 明治42年～43年（1905～6）、(3)法量 ダム内壁の高さ6.4m、ダムの長さ41m、(4)箱島不動尊の湧き水（日本名水百選の一）を利用して発電した東第一発電所（旧箱島発電所）のダムで箱島水力発電株式会社として発足、後に高崎水力発電株式会社と合併、明治43年完成、その時前橋市に開かれた1府14県連合共進会に電力を供給一大衝動を与えたという、まさに電気産業の夜明けであった。このダムの石は祖母島（現渋川市）から馬で運んだという、明治43年創業、昭和31年4月廃止、ダムは同時の姿を完全に残している。

**13. JR群馬原町駅舎** (1)所在地群馬県吾妻郡吾妻町大字原町627、(2)年代 昭和20年（1945）、(3)構造 木造平屋建、切妻造、セメントスレート葺、(4)太平洋戦争中の昭和18年、戦争遂行のため鉄材の必要性から、吾妻郡六合村地内に群馬鉄山を開き、その鉄鋼石輸送の目的で、吾妻郡内町村各種団体

の勤労奉仕を得るなどして空貫工事により吾妻線を長野原町を経て六合村太子まで鉄道を敷設、昭和20年竣工して鉄鋼石の運搬をはじめたが、あまり運ばないうちに戦争終結となった。その後に鉄鋼石その他の物質、人員輸送となった。この駅舎は現在吾妻線の一駅舎として竣工当時のままほとんど改造されないで使用されている。周囲の羽目板、待合室の天井、屋根のスレートなど当時の姿がよく見られる。



貴重な道路元標



光山倉庫の見学風景



小林家住宅



ロックフィルダム

## 「中之条盆地の近代化遺産をたずねて」を実施して

中之条町教育委員会社会教育課長 植木正勝

この度の中之条盆地の近代化遺産見学会は、中之条町としては新しい試みでもあり、また前日からの大雨が朝まで残り参加者の有無が心配されましたが、県内各地から61名の参加をいただき開催することができました。この企画は中之条町の近代化に貢献した建造物が年々少なくなっていく現状を皆様に紹介し、近代化遺産の保存と活用にご理解いただくよい機会がありました。

中之条町の近代化は群馬県内の各地域と同様、明治20年代からの養蚕製糸業の繁栄からはじまり、商業、金融業もそれにより急速に進展、また、新町村制や郡制の確立による行政諸機関の新築整備、学校設立等も加わって町部が発展していった。大正次代に入り製糸工場、物産倉庫業、交通運輸業等の民間会社の設立が多くあり近代化が促進されました。

この次代に近代的手法でつくられた建造物もその後の経済恐慌、戦後の急速な時代変化によって取り壊され現在では少なくなってしまいました。

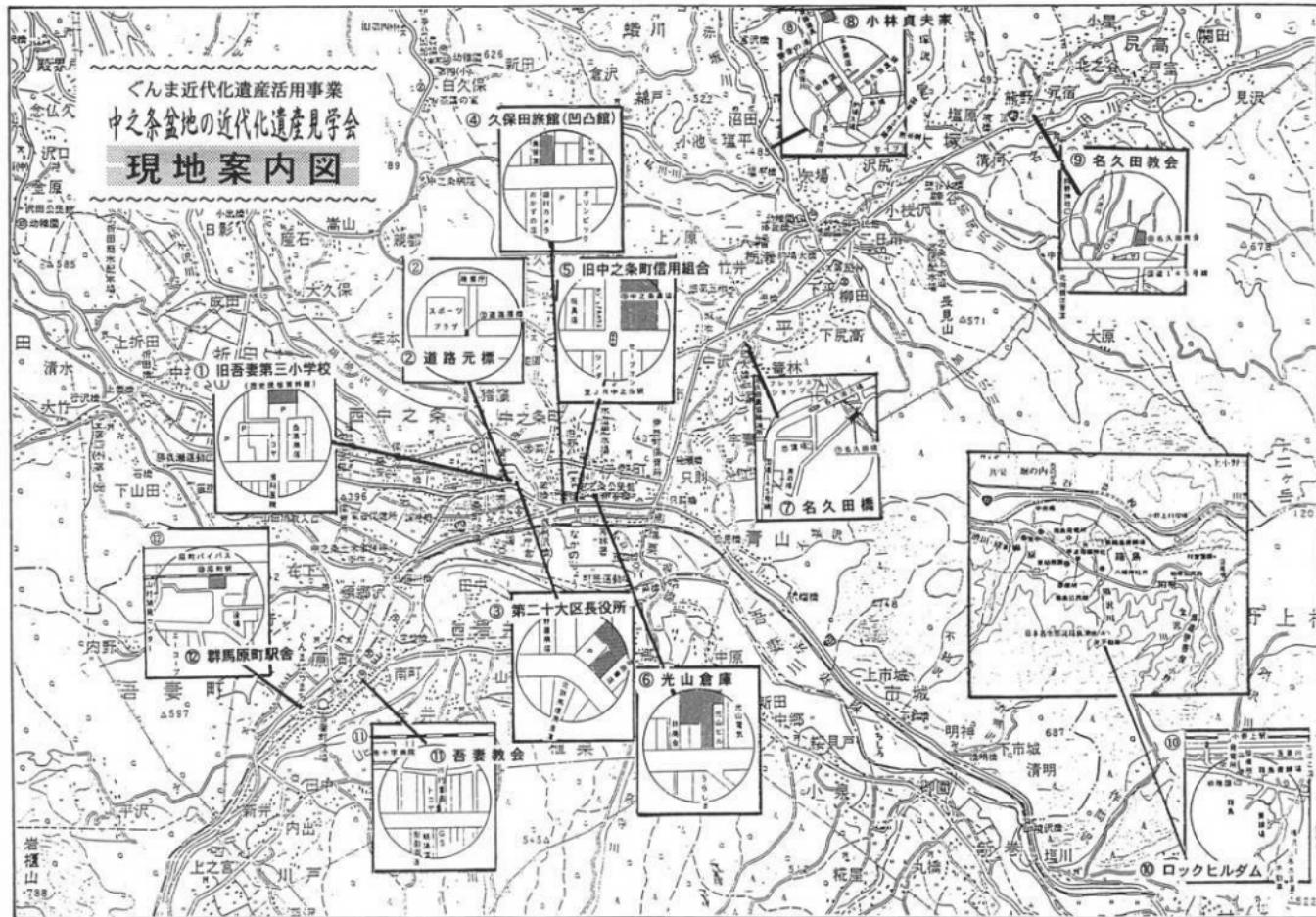
見学会は、東部吾妻に現存する近代化遺産の中から中之条町を中心に吾妻町、東村、高山村から12個所を設定し、午前は施設を自由に見学し午後は近代化遺産についての講演と参加者の感想発表という日程で行いました。参加者の年齢は8歳から83歳でありまして、そのうち60歳以上が約7割を占め近代化と共に進んだ年代の方が多く、それぞれの会場で当時を思い出し懐かしそうに語り合っている姿が見られました。

参加者の印象としては、近代化遺産とは何か理解している人は少なく、今回参加して理解し近代化遺産の保存の必要性を感じ良い企画であった、今後もこの様な見学会を県内各地で開催し広く県民に理解をいただくことが大切との意見がありました。

この度、「中之条盆地の近代化遺産をたずねて」を実施して、近代化遺産が他の文化財と異なり、ふだん生活している中で見過ごしている貴重なものがまだ残っていることを再認識いたしました。また、見学の建物は現在も使用しているものばかりで、所有者の方のご厚意により日頃地元の人でも見られない内部まで見学させて頂きまして、参加の皆さんは幸運であったと思います。近代化遺産は個人所有が多くその保存は大変難しいところであります、所有者のご理解を得、見学会を通して多くの人に理解していただくことが保存をしていくうえで大切であると思います。

おわりに、今回の見学会の開催にあたり、建物の所有者の皆様、そして説明をしていただきました町村の文化財専門委員の皆様のご協力により無事終了できましたことを感謝申し上げます。

「見学会に参加して」 28 頁は  
個人情報が含まれるため非公開



平成 5 年度

## ぐんま近代化遺産活用事業報告書

平成 6 年 3 月 日 印刷

平成 6 年 3 月 31 日 発行

編 集 群馬県教育委員会文化財保護課

発 行 群馬県教育委員会

〒371 群馬県前橋市大手町1-1-1

電話 0272 (23) 1111

印 刷 梅田印刷有限会社